

令和  
4年

## 加藤市長 施政方針

新型コロナウイルス感染症は、依然予断を許さない状況が続いています。医療従事者の皆様をはじめ、関係する全ての皆様に深い敬意とともに、心からお礼申し上げます。

市民の皆様には日常生活での感染回避行動の徹底のご理解、ご協力に深く感謝いたします。引き続き、新型コロナウイルス感染症と向き合いながら、市民の皆様の安全・安心の確保と、地域経済活動の推進に取り組んでまいります。

令和2年11月7日から、私にとって第2期目の市政のかじ取り役を担わせていただいておりますが、本年は、折り返し地点となる2年目となります。

本年度も、新型コロナウイルス感染症への対応など市民の皆様の命と健康を守ります。また人口減少や少子高齢化等の課題にできる限りスピード感をもって取り組めるよう、SDGsやDX、「新しい生活様式」等に対応した市政運営を推進していきます。

市民の皆様とともに「<sup>あった</sup>温か笑顔の東温市」の実現に向けて全力前進してまいります。

(市議会定例会での施政方針より)

# みんなのでつくる 東温の未来

桜の花びらが舞い、新しい年度がスタートする4月。令和4年第2回東温市議会定例会では、加藤市長が施政方針を述べ、市政運営に対する決意を新たにしました。

今月は令和4年度に実施する施策や予算をお伝えします。先行き不透明な時代の中、刻々と変化する地域課題に求められる施策とは。

令和  
4年

東温市長  
加藤 章





# 5つの柱を基盤にまちづくり

2月25日、令和4年第2回東温市議会定例会が市役所5階議場で開会されました。開会にあたり、加藤市長が市政運営に当たっての基本方針を述べました。施政方針をお伝えします。

## まちが一体となって守る命

市民の声を大切に  
するまちづくり

「住みよ、暮らしやすい東温市」に「住み続けたい」という思いを実感できるまちづくりを推進するためには、市民の皆様の声が大変重要となります。これまで実施してきました「タウンミーティング」は、市民の皆様から市政に対するさまざまな声を直接聞くことができる重要な機会です。近年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止

し、市民の声が届くまちづくりを進めます。

健康日本一のまちづくり

新型コロナウイルス感染症の克服は、避けて通れない喫緊の課題です。市民の皆様との健康を守るため、感染回避行動の徹底と、ワクチン接種体制を確保し、迅速かつ確実に接種が行えるよう進めていきます。

また、引き続き、東温市医師会・同歯科医師会、愛媛大学医学部及び愛媛医療センターなどの協力による、健康づくり講座や健康フォーラムを開催すると

もに、市内中小零細企業との連携事業「とうおん健康医療創生事業」の取り組みを進めていきます。

本年4月にオープンする「愛媛大学地域協働センター中予東温」を拠点として健康・医療分野を中心に市内中小零細企業と連携した施策を展開し、市内企業の発展、地域経済の活性化を図ります。様々な機関と連携しながら「健康日本一のまちづくり」に繋がっていきます。

災害に強い安全安心のまちづくり

昨年7月には、集中豪雨

しい財政運営が続くと思われませんが、子育て支援や障害福祉サービス、介護サービスなど、市民生活に直結する施策に継続して取り組み、子どもから高齢者まで、また、障害の有無や性別に関わらず、誰もが笑顔で暮らしやすいまちづくりを目指します。

環境政策の推進による美しいまちづくり

国は、気候変動対策として脱・炭素社会の実現に向けて2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする目標を掲げています。

本市においても、地球温暖化対策に関する実施計画「とうおんスマートエコタウン計画」推進の効果検証を行うため、温室効果ガス排出量の現況把握などを行い、必要に応じてその見直し等を検討し、市民、事業者の皆様とともに、より効果的な施策を推進していきます。

また、市クリーンセン



河之内地区のホタル。6月上旬に表川で見られる

## 美しいまちづくりの実現

資や防災資機材の拡充などを着実に進めていきます。

また、災害が発生した場合、市内にある中核医療施設の「医療活動の支援」、陸上自衛隊松山駐屯地及び愛媛県警察本部機動隊による「災害発生時の救急活動支援」等が迅速に行えるようスマートインターチェンジ及び周辺道路の整備を進めます。

持続可能な子育て支援や、障がい者福祉・高齢者福祉の充実したまちづくり

子育て支援については、妊産婦や子育て家庭等を対象に子育てに対する不安や悩みに寄り添い相談支援を行うため、「子育て家庭総合支援拠点」を設置します。また、放課後児童クラブや保育所等における保育環境の整備・向上に、引き続き取り組めます。

人口減少・少子高齢化を背景に持続可能な社会保障制度の構築が求められる中、本市の社会保障給付費は依然として増大し、厳

により、熱海で大規模な土石流の発生、8月には佐賀県で大規模な水害が起こるなど、各地でさまざまな自然災害が発生しており、広域化・激甚化・頻発化しています。また、「南海トラフ」を震源域とするマグニチュード8〜9クラスの地震が高い確率で起こると予想されるなど、大規模災害等の可能性も高まっています。

大規模災害等に対応する、しなやかで強靱なまちづくりを推進するため、東温市国土強靱化地域計画に基づき、大規模災害時に備え、さまざまな訓練の実施、福祉避難所の整備、備蓄物

ターの操炉稼働終了に伴い、4月以降に本市から排出される「燃やすごみ」は、松山市に搬入し、焼却処分されます。改めて市民の皆様への十分な周知を行い、引き続きごみの適正な分別収集と不法投棄への対策を進めていきます。

環境施策の推進は、重信川の恩恵を受ける3市2町の、流域の最上流を預る東温市として、重要な施策の一つとして位置付けており、「美しい東温市のまちづくり」に、欠かせない取り組みです。

以上の5つの柱に加え、農業の担い手育成支援や、森林経営管理事業等の農林振興、さくらの湯観光物産センターを核とした商工観光の振興、教育文化芸術の振興など各種施策にも引き続き全力で取り組めます。



重信川河川敷の桜並木



# 東温市のこれから

令和4年度の主要な施策についてお伝えします。第2次東温市総合計画後期基本計画に掲げる政策目標に沿って、新たな取り組みなど、その概要をお伝えします。

## 安心・安全な暮らしを目指す

みんなが元気になる健康福祉のまちづくり

新たな取り組みとして、産後の初期段階における母子への支援を強化する「産婦健康診査事業」や、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）感染を防ぐため、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した人を対象にした「キャッチアップ接種」を実施します。

引き続き円滑に行えるよう「新型コロナウイルススワクチン接種体制確保事業」などにより、生涯健康づくりの推進に努めます。

令和5年度に開催が予定されている「ねんりんピックアップ愛顔のえひめ2023（全国健康福祉祭）」の準備に向けた事業に取り組み、高齢者を中心とする市民の健康増進につなげます。

3歳以上の幼児を対象とする幼稚園の機能に、保育所の機能を追加し、保育と

幼児教育を一体的に行う施設として、既存の「北吉井幼稚園」を新たに「認定こども園北吉井幼稚園」として開園します。また、南吉井第二保育所のトイレ改修工事など、子育てを支援するための環境整備に努めます。

特定健康診査・保健指導事業では、「受診行動適正化事業」により医療費の適正化に努めます。

安全で快適な社会基盤のまちづくり

スマートインターチェンジ整備事業では、令和5年

度末の供用開始を目指し、整備事業を継続するとともに、周辺道路網の整備にも努めます。

都市基盤の整備では、市道の舗装長寿命化修繕事業や、安全で快適な自転車通行空間を確保するための路面標示工事、「見奈良東地区地区計画道路整備」、市内の公園利用者等の利便性の向上を図るため、和式から洋式トイレへの改修などを進めます。

水道事業では、アセットマネジメント計画に基づき、改築・耐震化を、下水道事業では計画区域の概成に向けた整備を進めます。

消防体制と防災・減災対策では、消防団施設整備、消防団車両整備を行います。また、本年から一部工事に着手する「松山圏域消防指令センター整備事業」は、令和6年度からの共同運用を目指し、事業を進めます。

市クリーンセンターについては、操炉稼働の終了により、解体撤去に向けて令和4年度から計画的に事業を進めます。

さらに、合併処理浄化槽設置事業補助金については補助内容の拡充を図り、汚水処理人口普及率の向上に努めます。

夕焼けと麦の穂。春や秋に各地で見られる



## 協働によるまちづくりを推進

創造性と活力に満ちた元気産業のまちづくり

市内全ての中小零細企業が抱える課題等を把握するため、「東温市中小零細企業現状把握調査」を実施し、市内の中小零細企業の振興に繋がります。

愛媛大学地域協働センター事業では、農村環境

改善センター内に「愛媛大学地域協働センター中予東温」を開設し、地域課題の解決や地域活性化に努めます。

長期化するコロナ禍において、「新型コロナウイルス感染症対策資金利子補給」や市内中小零細企業向けの「中小零細企業まるごと応援事業」により引き続き支

援を実施します。

「田窪第二工業団地」は、整備に向けた用地確保や工事に着手するとともに、「吉久工業団地」についても測量設計を実施するなど、企業立地の促進による雇用の場の確保に努めます。

心豊かに学びあう文化創造のまちづくり

学校ICT整備事業では、「GIGAスクール構想」で導入した児童・生徒1人1台のタブレット端末及び校内通信ネットワークを有効に活用し、児童・生徒の情報活用能力の育成を図ります。

学校施設大規模改修事業では、北吉井小学校の屋内運動場照明設備改修工事及び駐車場舗装工事、川上小学校屋内運動場照明設備改修工事、重信中学校雨水排水設備整備工事など、引き続き計画的に教育環境の整備・改善を進めていきます。

また、学校給食では、令和4年度から「アレルギー食対応事業」を実施ししま

す。まずは、卵や乳製品、種実類を除去した給食の提供を行い、順次、除去品目の拡大や代替食の提供により、学校給食の充実と食育の推進に努めます。

みんなでつくる協働・自立のまちづくり

新型コロナウイルス感染症の影響により、行政のデジタル化は喫緊の課題となつていきます。令和4年度から、県と20市町の連携による「愛媛県・市町DX推進会議協働事業」として、DXを推進できるデジタル人材を市町間でシェアできる仕組みの構築と、民間事業者との協働による「デジタルデバイス対策」に取り組みます。

本市においても、「東温市デジタル化マスタープラン」に基づき、デジタル環境の整備や行政手続のオンライン化、デジタル人材を活用した専門人材の設置、体制整備及び人材育成などに取り組まれます。また、民間のノウハウなど情報収集

も行い、着実にデジタル化を推進し業務の効率化と市民の利便性の向上に努めます。

「学校・家庭・地域連携推進事業」では、放課後子ども教室の拡充を図り、学校を核とした地域づくりを推進します。

さらに、マイナンバーカードの普及促進の取り組みを行い、その取得率向上にも努めます。

東温市においても、人口減少、少子高齢化及び社会経済情勢の影響で、厳しい財政状況が続いています。令和4年度の市政運営に当たっては「ウィズコロナ」「ポストコロナ」を見据え、引き続き、市民の皆様の安全・安心の確保と、地域経済活性化の両立に取り組まれます。SDGsの合言葉にあるように「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを推進し、「温か笑顔の東温市」の実現に向けて全力前進していきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。



白猪の滝の水瀑は数年一度見られる



当初予算の主な取り組み 単位：万円

＜みんなが元気になる健康福祉のまちづくり＞		
新	産婦健康診査費用の助成	1,222
新	HPV ワクチンのキャッチアップ接種	1,277
継	新型コロナウイルスワクチンの接種	1億3,863
新	ねんりんピック開催事業	197
新	認定こども園の運営	1,943
＜安全で快適な社会基盤のまちづくり＞		
継	スマートインターチェンジの整備	3億9,661
継	市道前川堤防線の整備	6,400
新	公園トイレの洋式化	1,600
継	燃やすごみの収集処理	2億9,945
新	松山圏域消防指令センターの整備	4,488
＜創造性と活力に満ちた元気産業のまちづくり＞		
継	森林経営管理事業	4,000
新	中小零細企業現状把握調査	774
新	愛媛大学との地域協働連携事業	200
継	中小零細企業まるごと応援事業	600
継	工業団地の整備	9億2,840
＜心豊かに学びあう文化創造のまちづくり＞		
新	学校給食におけるアレルギー食対応事業	739
継	小学校・中学校施設の大規模改修	1億3,327
継	学校のICT整備	1億3,292
新	小学校社会科副読本の製作	134
継	適応指導教室の運営	680
＜みんなでつくる協働・自立のまちづくり＞		
継	学校・家庭・地域連携による協働活動	459
継	タウンミーティングの開催	93
継	アートヴィレッジとうおん構想の推進	1,400
新	DX・デジタル化の推進	539
新	行政手続きオンライン化の推進	1,843

新…新規事業 継…継続事業  
(前年度当初予算との比較)

**用語解説**

- ◇一般会計…高齢者福祉や児童福祉、保健衛生、道路整備、ごみ処理、学校教育、消防などに使うお金をまとめたもの
- ◇特別会計…一般会計と切り離して特定の事業ごとに経理する予算。保険税や保険料など特定の収入で事業を実施する
- ◇自主財源…市税や使用料など、市が自主的に収入する財源
- ◇依存財源…国や県の基準に基づき交付される財源。主に地方交付税や市債、国県支出金がある
- ◇地方交付税…全国どの市町村に住んでも一定水準の行政サービスが受けられるよう国から交付される
- ◇市債…市が国や金融機関などから借り入れる資金
- ◇公債費…市債を返済するための経費
- ◇総務費…財産管理、戸籍、選挙事務、地域振興などに要する経費
- ◇土木費…道路や公園などの整備、維持管理に要する経費

	本年度	前年度比
一般会計	157億5,500万円	△0.2%
特別会計		
国民健康保険	37億4,890万円	△0.9%
後期高齢者医療	5億600万円	9.3%
介護保険	42億3,210万円	0.8%
田窪第2工業団地	8億3,070万円	970.5%
吉久工業団地 ※	9,770万円	—
小計	94億1,540万円	10.5%
公営企業会計		
水道事業会計	15億8,170万円	△2.0%
下水道事業会計	20億3,590万円	0.3%
小計	36億1,760万円	△0.7%
合計	287億8,800万円	3.0%

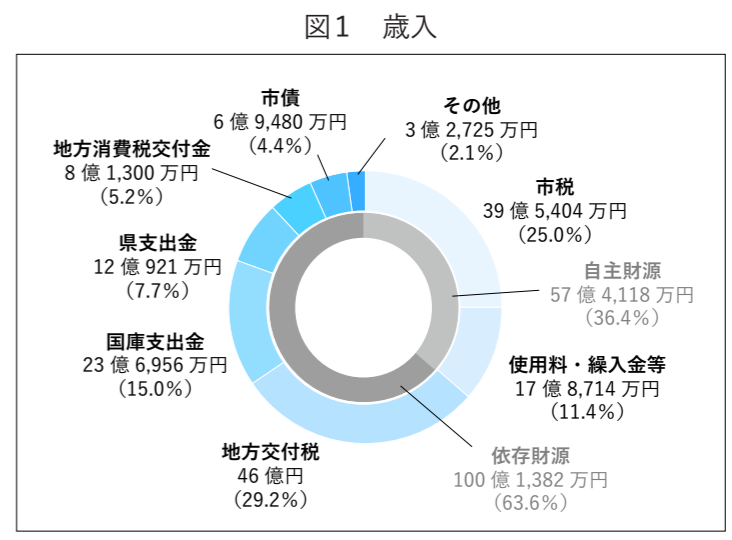
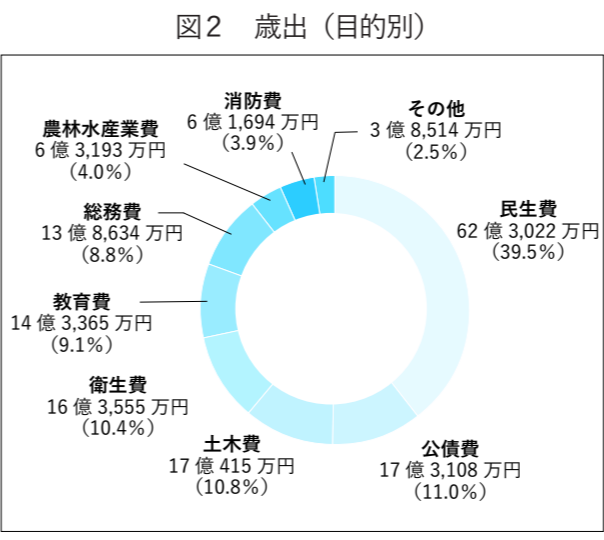
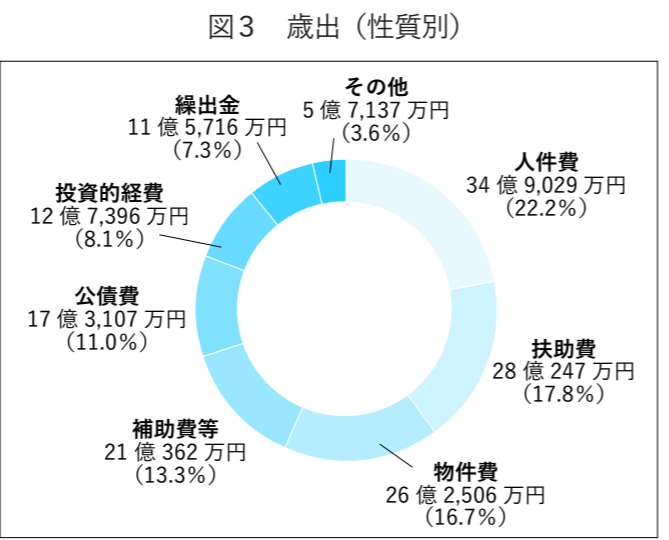
※ 吉久工業団地は新設のため前年度比の記載なし。

一般会計 **157** 億 5,500 万円  
 特別会計 **94** 億 1,540 万円  
 公営企業会計 **36** 億 1,760 万円

# 令和4年度 まちの 予算

令和4年度一般会計当初予算は、スマートインターチェンジの整備や新型コロナウイルスワクチン接種の実施などから、東温市発足後2番目に大きい予算規模の157億5,500万円(対前年度比0.2%減)となりました。

特別会計は、工業団地の整備を行うため吉久工業団地特別会計を新設するなど、総額94億1,540万円となっています。企業会計は、水道事業会計と下水道事業会計を合わせて36億1,760万円です。



企業会計は、前年度と比べ2,580万円(0.7%)減となりました。水道事業は、水道管移設費の減少など、3,290万円(2.0%)減となっています。下水道事業は、上林・拝志処理区の統合による除却費など、710万円(0.3%)増となりました。

特別会計は、前年度と比べ8億9,250万円(10.5%)増となりました。後期高齢者医療は、保険料の変更に伴う広域連合への納付金の増加などにより、4,300万円(9.3%)増、介護保険は、介護サービス利用の増加などにより、3,430万円(0.8%)増、田窪第2工業団地は、造成に向けて用地取得や物件移転補償などを進めるため、7億5,310万円(970.5%)増となっています。国民健康保険は、保険給付費の減少などにより、3,560万円(0.9%)減となっています。

歳入は自主財源が36.4%、歳入(図1)について、自主財源が36.4%、依存財源が63.6%となっています。自主財源の柱である市税は全歳入の25.0%を占め、39億5,404万円を見込んでいます。依存財源は地方交付税が全歳入の29.2%となる46億円、市債は4.4%の6億9,480万円を見込んでいます。

歳出は今年度も多額に歳出を目的別(図2)に見ると、保育を必要とする子どもの増加に伴い、保育施設への施設給付費が増加することなどから、民生費が前年度から1億3,102万円(2.1%)増となり、全体の39.5%を占めています。見奈良大橋の補修工事など道路橋梁の長寿命化事業等から、土木費が1億3,246万円(8.4%)増となっています。

性質別(図3)を見ると、北吉井小学校の増改築工事の完了などにより、普通建設事業費が前年度から2億8,159万円(18.2%)減となっています。また、市ク

特別会計は増・企業会計は減